

電気通信大学は、香川大学、東京電機大学 およびフランスの3大学とメカトロニクス分野の国際 教育研究協力機構の設立について協定を締結

電気通信大学はこの度、香川大学、東京電機大学、およびフランスのフランシュコンテ大学(ブザンソン)、ENSMM(ブザンソン)、サボア大学(アヌシー)と共に、日仏6大学によるメカトロニクス分野の国際教育研究協力を実施するため、IOREM (International Organization of Research and Education on Mechatronics)を設立することについての協定書に調印しました。

調印式は、サボア大学において2009年1月30日に行われました。本学からは、三木哲也理事(国際交流推進センター長)と青山尚之教授(知能機械工学科)が出席しました。

日仏6大学調印式および記念写真



それぞれの大学の代表者が調印に関するメッセージを読上げ、IOREMの調印となった。

調印式の後、各大学からの記念品の交換を行い、日本側からは高松特産の漆器の花瓶が贈呈された。



Univ. of Franch Comte and ENSMM [=ブザンソン]



フランスらしい曲線とガラスを多用したキャンパス建物であり、海外からの留学生むけの語学センターなども充実していた。



香川大-ENSMMの学术交流協定調印の後、FEMTO-ST 研究所を見学した。



INSA-Lyonの訪問



ローン・アルプ地域の工科系専門教育の拠点機関でもあるため、インターネットを利用した遠隔メカトロ実験施設が充実していた



国際交流担当者より、INSA-Lyonの国際交流の概略説明を受ける。すでに東北大学の材料分野で長い交流の実績を有していた

※リヨンにあるINSA-Lyon(フランスでトップクラスの高等科学技術大学院)は今回の調印には参加せず、オブザーバーとして協力する予定である。

サボア大訪問および メカトロニクス教育研究施設の見学



ポリテク・サボア工科系カレッジで、メカトロニクスの研究教育に力を入れており、香川大学からも大学院生を海外インターンシップとして受け入れて研修させていた

<なぜフランスの地方都市・ブザンソンで 先端メカトロニクス技術が盛んなのか?>

- フランス・ブザンソン～リヨンやアヌシー地域はスイス国境に近く、そのため古くから時計産業が地場産業としてあり、これが核となってフランス国内では屈指の先端メカトロニクス・マイクロテクノロジーの拠点となっている。
 - こぼれ話: その昔、ブザンソンは農業中心の田舎町であり、新たな産業振興を望んだ当時の町の関係者は町中の美人を集めて、スイスに嫁がせ、そこで有能な時計職人と結婚させ、しばらくして、家族と共に里帰りさせて、時計産業の技術移転に成功したそうです。これが基になって現在の先端メカトロニクスの研究開発地域に繋がったとのこと。
-